



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009



ガバナーメッセージ

“会員増強反転の年に！”



国際ロータリー第2710地区

ガバナー

諏訪昭登

会員増強及び拡大月間によせて

ロータリーの創設者ポール・ハリスは、ロータリーは砂漠の中のオアシスのような存在だと位置づけております。皆様がたもロータリーライフの中で、まさにこのような感慨をお持ちではないでしょうか。その愛すべきロータリーが、世界はともかく日本では1998年4月をピークに大きな退潮を見せています。

・日本のロータリアン数

1987年 期末 102,426人（初めて10万人超）
1998年 4/末 131,731人（最多）
2006年 6/末 98,855人（初めて10万人を割る）
2007年 6/末 97,008人（最少）26.4%減
2008年 2/末 96,300人（最少）26.9%減

（ロータリーの友誌データ）

・第2710地区

1998年 5/末 4,379人（最多）
1998年 7/1 4,282人（年初最多）
2007年 7/1 3,423人 21.8%減少
2008年 4/末 3,427人 21.7%減少

（月信データ）

今よりもっと輝いていた我らのロータリーを思うと大きな淋しさを感じます。1905年、親睦と相互扶助を目的とした社交クラブとして創立されたロータリーは、翌年直ちにいわゆる社会奉仕概念の導入が始まり、1908年、F. シェルドンがシカゴRCへ入会し、世のため人のためを考えるこ

とをService(奉仕)という概念で集約しました。世のため人のためを考えると、それはシカゴにとどまらず全米すべての都市にあるべきで、奉仕の理念を地域社会に広めて行く拠点とすることを考えました。これがロータリー拡大の理念であり、ロータリーの拡大と奉仕理念の提唱は表裏一体の関係であることの根拠であります。クラブの和を保ち、地域社会の職業を網羅すべく考えられた一業一会員制の解説について、1913年頃にアラバマ州バーミングハムRCが表明しています。「ロータリアンはその職業の代表としてロータリアンになったのではなく、ロータリーがその業界へ派遣した使者である」従ってこの職業分類の原則に則り、地域社会のすべての適格者を会員に迎えることが理想であるわけです。

ロータリー拡大のため、1910年には16RCの連合組織体としてRIの前身たる全米ロータリークラブ連合会が設立され、基本的に現在と変わらない三つの任務が委託されました。それは

- ①奉仕理念の追求・提唱
- ②ロータリーの拡大
- ③情報の媒介（1911年）であります。

ロータリーの拡大・会員増強は各クラブがRIに与えた至上命題でありました。RI、その役員であるガバナーはロータリーの拡大・会員増強を常に強調するわけです。クラブには自治権があり、等位置の関係にありますので勿論それは強制されるものではありませんが、クラブとしては親睦を壊さないように、会員増強・ロータリーの拡大を図ればよいのです。決議23-34、第5項のいう口



一タリーにおける対立と協調の問題として、和やかに進行すべきことであります。1960年代初期に急速に拡大するロータリーの時代背景の中で、今でも有名な「質と量」についての公開論議がありました。

ロータリーの友、1960年8月号で直木太一郎、柏原孫左衛門両パストガバナーが自説を発表され随分話題となったものです。(当時会員2万人)直木PGは「ロータリアン育成の第一歩は質の良い原石を探し出すことであり、それを磨き上げてダイヤモンドにするやり方である。今は原石が大分たまっているの、原石探しは一段落させて玉磨きに専念すべき時期ではないか」と今では少々羨ましいところがあるような意見でした。柏原PGは「私は量をとめて質を上げる努力をすることはロータリー本来の姿ではなく、量をふやしつづ質を良くする即ちロータリーは質と量を両輪として発展して行くべきではないか」と返しました。両意見は、ロータリーの発展と拡大という目的を有効に進めるための立場では、全く同意見であり、質と量論の歴史的論議として今日に至っているものです。つけ加えますと北沢PGは「およそ物体現象は質と量の二つの面を持っており、質が良くなければ尊重されないが量においても相当に大きいものでないと力を成し得ない。質は量によって保証づけられる」と述べており、菅野PGは「人は誰れでもロータリアンたり得る素質をもっており、このことを否定したらロータリーの発展はあり得ない」と語っております。いずれも量的に問題を抱えている昨今のロータリーでは、遠い過去の羨ましい悩みともとれますが、反面大きな教訓として考えるべき問題でしょう。今居るロータリアン以外に良質な人が居ないというわけは無く、ロータリーサイドの独善といわざるを得ません。適正人数などというのは、さらにクラブ運営のやり易さを優先した偏見であって、小じんまりとした仲

良しクラブではロータリーの価値観と前途は考えられないと思います。

今、ロータリーの現状はまさに猶予を待てない姿であり、会員増強はロータリー存続に関わる緊急事項であります。

私は地区強調事項としてクラブ運営の充実と会員基盤の強化(会員増強)を要請しております。会員減少の原因は経済状況に主としてあると言われるますが、それだけではありません。

クラブ運営において理念の研修が欠けたり、党中党派や屋上屋を重ねるような、言わば非民主的な傾向がなかったでしょうか。

私はそこで、クラブ研修リーダーを任命されて、新会員のみならず既存会員を含めたロータリー情報の継続実施を提案しております。

ロータリーは人生の道場であり、ロータリアンが奉仕の心を磨くところでもあります。和やかで民主的なクラブ運営あってこそその会員増強であり、奉仕プロジェクトの実施です。

RIテーマ「夢をかたちに」するためにも意のある所をお汲み取り下さり、特に日本ロータリーのパワー反転の年にしていただくようお願いします。職業奉仕を第一義とした日本の香りのするロータリーを“心に愛を、実践に情熱を!”の信条で強力に推進ねがうところでもあります。

“ロータリーは、適切な方式が考え出されたという事実だけで、大きくなって行ったのではないのです。拡大しようという、たゆみない努力があったからこそ、ロータリーは世界的な影響力をもつようになったのです”

P. ハリス (ロータリーへの私の道)